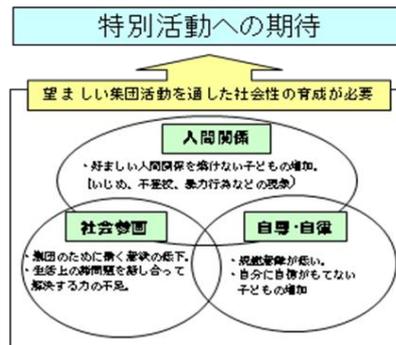


Q3： 特別活動の目標に「人間関係」が加えられましたが、どのような指導に配慮したらよいですか。

はじめに

特別活動の目標に「人間関係」が加えられたのは、生活体験の不足や人間関係の希薄化、好ましい人間関係が築けず社会性が育たないといった今日的な教育課題を踏まえてのことです。指導の際の配慮としては、特別活動の特質である望ましい集団活動や体験的な活動、よりよい生活をするための話し合い活動、異年齢による集団活動などを一層重視することが求められます。



また、学級活動、児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の目標に「望ましい人間関係を形成し」が共通に示されていることから、各活動・学校行事の特質に即して指導することによって、特別活動全体として児童生徒一人一人に望ましい人間関係を築く態度が形成されていきます。

望ましい人間関係の形成



人と人の結び付き（人間関係）は、同じ目的に向かって協力したり達成感を共有したりするときに強くなります。

特別活動においては、学級や学校生活の向上を目指した活動目標を決め、その目標を達成するための方法や手段を全員で考えたり、役割を分担して実践したり、実践の過程で互いのよさに気付いたりすることによって、望ましい人間関係が形成されると考えられます。このことから、次のような活動を重視することが大切になります。

- 学級や学校の生活上の諸問題について、言葉や話し合いを通して解決するための学級会や楽しい学校生活をつくる係活動や集会活動
- 協同の目標の実現を目指して、同年齢で協力して行う様々な集団活動
- 世話をしたり、世話をされたりするような異年齢による交流活動
- 児童会・生徒会活動やクラブ活動、学校行事などにおいて、地域の人々と触れ合ったり会議をしたりする活動や、あいさつや言葉遣い、正しい敬語などを活用してコミュニケーションを図るような交流活動

人間関係を形成する力の育成

学級活動(2)の「ウ 望ましい人間関係の形成」などで、人間関係を形成する力を養うには、様々な手法を活用することが考えられます。その際、日常生活と関連付けながら、集団での話し合いを通して、児童生徒一人一人が個人の目標を自己決定し、個人で実践できるよう指導することが必要です。単なるゲーム的な活動やスキルを身に付けるだけの活動にならないよう配慮します。

手法には、次のようなものが考えられます。

- 意図的にあるグループ作業を行わせ、ここで感じたことなどを率直に話し合うことにより人間関係を形成するために大切なことを理解させる手法
- 人間関係を形成する知識や方法などについて、ロールプレイングやグループで練習するような手法

おわりに

特別活動の目標に「人間関係」が加えられましたが、単に人間関係づくりだけを重視するというのではなく、特別活動が、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる教育活動であることをしっかりと踏まえて指導することが大切です。